

物語としての構想を巡らせて、ひとつの作品を仕上げる。
自分の内面と向き合いながら、ひたすら自己を練磨していく。
その達成感を繰り返すことができた人は、その時点で人生の勝者である。



<http://storytellerbooks.jp/>

電子書籍専門出版レーベル「Storyteller」。2013年6月、新作品発表！ Andoroid Marketにて、作品販売開始！

電子書籍専門のエンターテインメントレーベル「Storyteller」(運営: 有限会社Storyteller 代表取締役 久保健)は、2013年6月度、以下の作品をリリースします。当レーベルは、ノベルを中心に、App Store、Andoroid Marketなどで販売する電子書籍の制作・プロデュースを行う「電子書籍専門出版レーベル」です。

—2013年度6月度 リリース作品—

■佐々木君紀『べあべあ日暮ら市』6月6日販売開始(Adoroid Market)



職業作家という肩書き以外、とりたてて目立つことは何もない平凡な男だった。その日も、いつもと同じように、池袋駅から自宅に向けて電車にのった。はずだった。
だがそれは、想像もつかない異世界への旅立ちだった。
クマが車掌をして、虎が笑い、ウサギが話す。動物たちが、口々に駄洒落を言う。そして歌う。そこは、ヒトこそ異物の不思議な世界。
すべての常識が通じない、ヒトのような動物たちの世界。
そんな世界に迷い込んだ男は、話がどうにもかみ合わない動物たちと、なんとかコミュニケーションをとりながら、迷い込んだ世界と動物たちを少しでも理解をしようと努める。そして男が気づいた、異世界の秘密とは……。かつてない宮沢賢治へのオマージュ的作品。

■佐々木君紀、他作品 (APP STORE、Adoroid Market)



何の前触れもなく、ある朝、世界は緑に浸食され、当たり前前の日常は消え失せてしまった。世界は美しく、ゆっくりと滅んでいく。もはや世界も自分も、どこにも向かわない。退廃的な世界の中で、切なく自分の存在を問いかけ続ける、新進気鋭の女流作家が紡ぐ渾身のファンタジー。

作家プロフィール

佐々木君紀
(ささききみのり)

SF作家。武蔵大学経済学部卒。
1990年に超大作『アトランティス』全8巻でデビューを飾る。
以後、『バベルの戦士』全6巻など、密度の濃い巨大な長編作品を発表し続ける。21世紀に移ってからは、インターネット上のサイトで自作の発表を開始する。その過程で執筆姿勢を変えつつあり、何巻にも及ぶ長大な物語を手掛ける。

装画について

◆村田修「青きひまわり」など。

◆村田修の代表作—三津田信三著『密室の如き籠るもの』『水魺の如き沈むもの』などの装画